

C b f b y b f j f q T C t T o A H j

～ 指定特定相談支援事業について ～

りじちょう おくやま はづき  
理事長 奥山 葉月

たちかわし くに しめ けいかくそうだんし えん しょうがいじそうだんし えん たいしょうしゃかくだい へいせい  
立川市では国が示している「計画相談支援・障害児相談支援について 対象者拡大については平成 2 4  
ねん ど だんかいてき かくだい へいせい ねん ど すべ たいしょうしゃ じっし いこう う さくねん  
年度から段階的に拡大し、平成 2 6 年度までに全ての対象者について実施」という意向を受け、昨年 1 0  
がつ しょうがいしゃ けいかくそうだんし えん へいせい ねん ど つか  
月より障害者の「計画相談支援」をスタートさせました。平成 2 4 年度はこれまでサービスを使ったこと  
しんせい ひと たいしょう へいせい ねん ど にっちゅうかつどうけい りょう かた  
がなく、はじめて申請をする人のみを対象とし、平成 2 5 年度は日中活動系のみを利用されている方、  
へいせい ねん ど きょたく つか かた たいしょう すす けいかく  
平成 2 6 年度は居宅のサービスを使っている方を対象として進めていく計画です。

とう けいかくそうだんし えん おこ していとくていそうだんし えん じぎょうしょ しんせい  
当センターでも「計画相談支援」が行なえるよう「指定特定相談支援事業所」として申請しています。  
しょうがいしゃ じぎょう かいし まえ たちかわし いけんこうかん かさ き  
また、障害者にとってよいものとなるよう、この事業が開始される前から立川市と意見交換を重ねて来ま  
げんざい とう ふく かしょ じぎょうしょ けいかくそうだんし えん おこ かげつ いちど たちかわし  
した。現在では、当センターも含め 5 箇所の事業所が「計画相談支援」を行っており、2 ヶ月に一度、立川市  
かいさい れんらくかい じぎょうしょ いけん だ じぎょう おこ  
が開催する「連絡会」にて、それぞれの事業所からの意見を出しあい、この事業がスムーズに行なわれ、  
しょうがいしゃ い み はな あ おこ  
障害者にとって意味のあるものとなるよう話し合いを行なっています。

しかし、はじめてサービスを使う方と出会い、これからの生活を考える機会にご一緒できることは私たちにとって、とても有意義なことだと感じています。これまでどこにも相談してこなかった、家族で抱えていた、一人で悩んできたという声がよく聞かれます。そのような言葉を聞くと、胸の詰まる思いがします。何度か面談を行なっていくとサービス利用の相談だけでなく、ご家族が将来への不安をお話してください。将来の夢を教えてくださいということも少なくありません。そのような場合はサービス事業所との連携だけでなく、「立川市」「委託相談」「地域生活支援センター」「就労支援事業」「地域包括支援センター」「子ども家庭支援センター」「医療機関」などとの連携も必要となってきます。

じり つせいかつ                      たちかわ                      で                      あ                      おも                      ていない                      しょうがいしゃ                      かぞく                      きも

「自立生活センター・立川に出会ってよかった」と思っていただけるよう、「丁寧に障害者、家族の気持ち                      き                      ひと                      ちから                      と                      もど                      たいせつ                      けいかくそうだしえん                      おこ

ちを聞き、その人の力を取り戻すこと」を大切に、「計画相談支援」を行なってもらいます。

福 祉 ホ ッ ト ラ イ ン ( 障 害 者 地 域 自 立 生 活 支 援 セ ン タ ー 事 業 )

平成<sup>へいせい</sup>24<sup>ねんど</sup>年度<sup>ねんど</sup> 立川市<sup>たちかわ</sup>障害者<sup>しょうがい</sup>週間<sup>いっしゅうかん</sup>イベント<sup>いっしゅうかん</sup> 報告<sup>ほうこく</sup>

立川市では今年度の障害者週間を11月18日(日)～11月25日(日)と定め、立川市役所等でイベントを開催しました。福祉ホットラインでは、引き続き実行委員長を務めさせていただきました。今年度は「絵でつながる思いやりの輪」をテーマとし、立川市内の小学校に通う4年生の児童の皆さんに向けて「障害のある人もない人も暮らしやすい立川のまち」というタイトルで絵画を募集し、展示を行いました。誰もが手をつなぎあい、お互いに笑顔で関わりあう作品ばかりだったのが印象的でした。その他の主な企画内容をご報告します。

＊ 講演会「障害者虐待防止法と私たちの暮らし」

10月1日に施行された障害者虐待防止法の概要や市民の役割について、弁護士の大石剛一郎氏（NPO法人PandA-J 副代表）にお話を頂きました。また、立川市の障害者虐待防止センターの機能について、障害福祉課より説明を頂きました。

#### \* 展示会

市内福祉団体の活動パネル・作品・パンフレット

福祉機器

（移動支援用具、情報機器・コミュニケーション機器等）

障害のある人の生活に役立つiPadのアプリケーション

#### \* 体験会

車いす、幻聴・幻覚（DVDによる）、A D H D（同）



イベント全体を通して1006名の方にご来場頂きました。来年度以降も、より多くの市民の方に障害のある人の生活について知っていただけるような場を目指していきます。

### 自立支援協議会 生活専門部会 報告

福祉ホットラインでは立川市自立支援協議会に生活専門部会長として関わらせていただき、関係機関・団体の皆さんとともに地域での支援体制づくりを進めています。

去る10月10日（水）に生活専門部会を行ないました。これまで生活専門部会で開催してきた居宅介護従事者研修会を立川市で主催している居宅介護派遣事業所連絡会へ役割を移行していくことについて議論しました。居宅介護派遣事業所連絡会に参加されている事業所の考えも知りたいという話になり、11月20日に開催した居宅介護派遣事業所連絡会で趣旨説明をし、アンケートでご意見を集めました。集まったご意見では「やっていきたい」「どちらとも言えない」という声が多く「余裕がないので反対」「やっても良いが役割などは担えない」というご意見もありました。

今後、生活専門部会で頂いた意見をもとに居宅介護従事者研修会の移行について検討していきたいとおもいます。

（鶴園 誠）

? f M G f U C t T

### 地域生活支援センターパティオ

パティオのプログラム利用は、担当職員と相談しながら自分の目的にあった内容に参加するようになって

ています。その為、プログラムごとに利用者層に特色が出ています。

プログラムはゆるやかな参加が可能な「フリープログラム（オープンスペース・夕食サービス）」とア

セシメントやエンパワメントなどの目的が明確な「グループ・プログラム（レディースデイ、出るデイ、

アイエルピー  
I L P、講座)」の2種類で構成しています。

今回は「出るデイ」についてご紹介させていただきたいと思います。

## ＜「出るデイ」の紹介＞

「出るデイは」2010年の4月から始まりました。開催は隔週水曜日午後2時から4時。名前の通り、外に出てきてもらうきっかけ作りのプログラムです。

対人関係が苦手な方や自宅に引きこもりがちな方には、外出や他者と関わりを持つ第一歩の場として利用していただき、新規の方にはパティオを知ってもらい入り口として利用していただいています。また、他のプログラムへの参加のきっかけやゆるやかな生活リズム（生活のハリ）づくり、その後の通所資源を考えるための場となっています。

スタッフは常時2名以上で担当しています。ウノ、トランプなどのカードゲームを通じて、複数の人の中でコミュニケーションをはかることを中心に行なっていますが、塗り絵、パソコン、音楽鑑賞などひとりでするものやオセロ、将棋など少人数でするものもあります。利用者は自由に自分のやりたいことを行ない、休憩も各自自由にとります。ひとりひとりのペースにあわせて利用することができます。

参加者から参加している他のメンバーの名前を覚えたいという声があったため、プログラムの最初に自己紹介やテーマに基づく短いお話をしてもらうなど対人関係のスキルアップを取り入れたゲームも始めました。

参加者は10名以上の白も多く、大盛況です。その理由として、スタッフの目の行き届いた手厚い環境で、安心できることひとつの大きなグループでゲーム等を行なっているため、ゲームに参加してなくても、人のやり取りを見ながら時間を過ごすことが出来るため気軽に参加できることなどが考えられ



たちかわし しょうがいふくしか しょうがいしやぎやうたいぼうし きのお は つうほう そうだんさき  
立川市では障害福祉課が障害者虐待防止センター機能を果たすことになりました。通報・相談先とし  
て、障害福祉課と社会福祉協議会に専用ダイヤルが設けられています。また法は、虐待を養護者・福祉施設  
従事者等・使用者によるものの3つに分類し、それぞれの対応の仕方について定めています。通報があっ  
た場合は、これに基づき適切に対応することになっています。支援者・家族・会社など何人も、障害者を  
虐待することがあってはならないという法の主旨です。



就労支援との関連で言えば、就職後の定着支援のあり方が重要と感じております。就職後安定し年数が経過すると、手厚い支援の必要性が減り、どうしても会社やご本人との関わりが薄くなります。そうした状況で、いつの間にか職場での問題が進行、増大してしまうケースがあります。いつまでも手厚い支援を続けなければならない就労状況は、そもそも適切とはいえないのですが、その一方で、会社とご本人の雇用関係を良好かつ安定的な状態に保つため、「つかず離れず」のスタンスで見守りつつ、長期にわたり支え続けていくことも重要と思います。問題は突然生じるのではなく、それに至る経過が必ずあります。小さい芽のうちに、対応しておくことが大切です。

嬉しいことに当センターでも年々就業者が増え、それに伴い定着支援業務も増加しています。限られた予算とマンパワーの中で、「手厚さと手広さ」(支援の質と量)のバランスをとって、いかに適切な支援を行なっていくのか、非常に難しいところです。とは言え、今法の対象となるような事態に至らぬよう、ご本人・会社双方に対して、しっかりと支援を行なっていくことが就労支援センターには求められます。加えて福祉従事者である我々自身も自らを厳しく顧みつつ、支援に励んで参りたいと思います。

(井上 貴央)

## 激瀬猪瀬瀬瀬瀬瀬 瀬 纒 碩 瀬瀬瀬瀬瀬瀬瀬瀬瀬瀬 瀬瀬瀬瀬瀬瀬 瀬瀬瀬瀬瀬瀬 職場紹介 PART 16 - 株式会社 いなげや 物流センター -



瀬瀬瀬瀬瀬瀬瀬瀬瀬瀬  
空いた時間はシールはがし

今回の訪問先は地元スーパー、株式会社いなげやの物流センター(立飛倉庫)です。ここでは細金笑美さんが働いています。細金さんは高校卒業後体調を崩し、3年間の精神障害者社会適応訓練を受けた後、2004年12月に当センターに登録しました。初めての就職先は青梅線沿線の小さな歯医者さんでした。ここで1日2時間、週3日、診察室と待合室の清掃を行ない、1年後にもっと長く働きたいと転職しました。二つ目の就職先は外食レストランで、1日5時間、週3日で食器洗浄や盛り付けなどを3年間行ないました。しかし、これ以上働く時間を延ばすのは難しいと言われ、ステップアップのために今の職場に転職しました。1

日4時間、週5日勤務することになり、初めて雇用保険に加入することができました。

入社して1年4ヶ月は武蔵村山の物流センターで、商品を入れる容器のシールはがしや洗浄を行なっていたのですが、2011年5月、物流センターの移転に伴い、細金さんも異動することになりました。環境や業務内容が大きく変わるため、会社では本人用の業務を組立て、マニュアルを作成し、担当者を決めて日々の指導にあたって下さいました。障害者雇用を先進的に進めておられる会社ならではの手厚いご配慮に感謝しています。

現在の業務は、店舗に商品を配達するドライバーさんが持ち帰ってきたプラスチックの容器を専用の板に積み上げ、必要に応じてシールをはがし、空になったカゴ車を片付けるというものです。作業場はトラックが荷物を積み下ろしする広い倉庫の一角で、夏は暑く、冬は寒い環境です。しかもフォークリフトが行き交う危険な場所でもあります。そのため、物流センターの方が常時見守り、安全や体調に気を配って頂いています。一人での作業からスタートしましたが、昨年4月からは1名増員になり、忙しい曜日は1日約2000枚のプラスチックの容器を、二人で協力しあいながら整理整頓しています。

この業務にはまず体力が必要ですが、それ以上にドライバーさんに「こんにちは、お疲れ様です」と笑顔で声をかけ、労をねぎらうことが求められています。細金さんはもともと人と話すのが苦手で、職場で困っ

ていることがあっても自分から相談することができませんでした。毎日ドライバーさんと接することで、次第に自分の気持ちや意見を伝えられるようになってきました。

このような細金さんの成長に寄り添いながら、少しずつ自立についてもお話ししてきましたが、仕事も安定し、昨年5月からグループホームでの一人暮らしがはじまりました。自立した生活が、働く意識の向上や仕事のスキルアップにもつながると、会社も応援して下さっています。入居から半年以上たちますが、一人になったことで生活リズムが乱れることも、体調を崩すこともありません。最近は料理をしてみたいという気持ちも芽生え、ますます充実した生活が送れているようです。これからも細金さんの職業生活がより豊かに続けられるよう支援していきたいと思います。（白部 貴子）



## 自立生活部

濱瀬 澁 瀬 澁

### いっぱい遊ぼう第二弾 「ボッチャれんじ」～みんなでボッチャにチャレンジしてみよう～



10月21日、村山特別支援学校の体育館にて「ボッチャれんじ」を行ないました。CIELでは学齢期の子ども達を対象に23年度からIELプログラムを行なっています。今回はその時に参加して頂いた小関裕次郎さんと谷川陸さんに企画から当日の準備や司会など協力してもらい、開催しました。

参加者は小学生から高校生の9名。プログラムの内容は「ボッチャ」という重度の障害がある方も出来るスポ

ーツにみんなで挑戦してみようというものです。このスポーツでロンドンパラリンピックに出場した秋元選手にもお越し頂き、パラリンピックでのお話をいただきました。

「次回は、企画からやりたい」という声も聞く事ができ、大変頼もしく、来年度がとても楽しみです。子どもたちも元気になり、私たちも元気になれるプログラムを今後も提供していきます。（鶴園 誠）



### 2012クリスマス会を開催しました！

去る12月13日、柴崎学習館講堂にて毎年恒例のクリスマス会を開催しました。CIEL立川に関わりのある方、69名にご来場いただき、職員含め80名以上の盛大なパーティーとなりました。



始まりの挨拶と「乾杯！」の音頭でスタートし、食事と歓談を楽しみました。さらに、今回はゲストとして「サニーサイドゴスペル」の皆さんをお招きし、クリスマスソングを中心に素晴らしい歌声を会場に響かせてくれました。

一気にクリスマス気分一色に盛り上がると、次は「帰ってきた！エンタメ」となり、部門ごと（ホットライン・就労・パティオ）に出場していただきました。各部門で練習に練習を重ねたクイズや歌、踊りが披露され、みんなで楽しいひとときを過ごしました。

恒例となった「光ってたで賞」では6名の方が授与され、最後に全員揃っての記念写真の撮影を行ない、クリスマス会は閉会となりました。

今年度も協力員の方に司会や、乾杯、プレゼンター等ご協力いただきました。また、次回、皆さんの元気な顔が見られるよう、企画したいと思います。  
(大石 幸治)



## 知的事業 プログラム報告

自立生活センター・立川では、内山綾子さんと泉口哲男さんにご協力頂き、同じ知的障害のある仲間に向けた、生活に役立つ情報の提供や、プログラムの実施などの活動を行っています。

### 防災プログラム～たのしくまなぼう～

2012年11月17日実施 【参加人数：3名】

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、多くの方が犠牲になりました。立川でも余震や計画停電の影響などで、不安な日々が続きました。災害とはなんなのか、被害を減らすにはどんな方法があるのか、知的障害のある仲間同士で、一緒に学びながら考えていくプログラムを開催しました。

#### 防災グッズってどんなものがあるの？

電気屋とスポーツ用品店に行って、いろいろな種類の防災グッズや非常食を見ました。

#### 防災まちあるき

避難所の案内板などを探しながら、災害時帰宅支援ステーション（災害時にトイレや水道水の利用ができる場所）となっているコンビニに行きました。

#### 立川防災館に行ってみよう！

地震体験や煙体験を行ったり、東日本大震災の時のビデオを視聴し、職員の方に地震や火事が起こった時の対応についてお話を聞きました。

参加された方からは「初めて地震の体験と煙の体験ができて、勉強になった」「1人暮らしだと、防犯への心配もある」などの感想を頂きました。災害に備えるための情報を共有できた時間となりました。



立川防災館にて、職員の方からの防災講座や地震体験の様子



## 作業所取材

立川市内にある知的障害がある方の活動の場を取材し、情報発信をしています。

グループいもっこ 立川市一番町3-6-1

取材日：2012年12月7日

生活介護事業と就労支援B型事業を行なっている事業所です。どちらも作業・余暇活動を行なっていますが、前者は生活支援中心、後者は一般就労へ向けた活動もされています。箱作り、袋作り、花苗育成、付録作り、古紙回収、都市軸清掃など幅広い仕事をしています。

メンバーさんに聞きました！

Q. 何のお仕事が一番好きですか？ A. 何でもできるから全部好きです。

スタッフさんに聞きました！

Q. メンバーさんと接するときに心がけていることはなんですか？

A. 仕事でやってはいけないことをした時は、外で失敗しないよう、本人のために伝えるようにしています。



～作業所「グループいもっこ」ってどんなところ？～記事より抜粋 (廣瀬 麻美)